

令和8年度 第4回旭地域会議 会議録

■日 時 令和8年7月2日（木） 午後7時00分～午後8時20分

■場 所 旭支所2階 第1会議室

■出席者

＜委員13名＞

伊藤和夫（会長）、鈴木雄也（副会長）、青木富美雄、安藤孝之、伊藤圭一、紀平純子、熊本ゆう子、鈴木好美、成瀬一、成瀬初恵、西田又紀二、森下正人、渡邊渚

＜産業振興課＞

稲垣量平（担当長）

＜事務局＞

杉本憲彦（支所長）、児嶋勇吾（副支所長）、梅村祐子（担当長）、山岡千裕（主査）、平井一輝（主事）

＜傍聴人4名＞

■欠席者 後藤美咲

1 開会

2 会長あいさつ

3 委員研修

（1）豊田市の商業活性化プランについて

4 支所長あいさつ

5 閉会

【内容】（要約）

1 開会

2 会長あいさつ

3 委員研修

（1）豊田市の商業活性化プランについて

産業振興課からの説明

委員は意見交換、産業振興課への質問

＜主な意見＞

【商品券について】

・商店にとって活性化になっているのか。店にとってメリットはあるのか。

→プレミアム商品券は消費を喚起し、市内商店等の利用を促すことにより、事業者の支援に繋がるものと捉えており、商工会の要望も踏まえて実施している。商工会からは、商品券をきっかけに地域内のサービスや商品を知ってもらう機会になると聞いている。(産業振興課)

- ・商店側の声として、チケットの裏に押印することが手間と聞いた。手集計で数えて換金するなどが手間。沢山扱うところほど大変なため、チケットに工夫があるとよい。
- ・事務にかかる負担がない、直接事業者を支援するような事業があるとよい。
- ・地域でお金が回る仕組みなどはどうか。モリ券のような地域内でのみ利用できる地域通貨による地域経済を回す仕組みなど。

→商品券事業の特徴の1つに、商品券の購入により一定額の市内消費が見込めることがある。市外・県外に買い物に行くことが多い地域もあるので、地域内での消費を促したい。(産業振興課)

- ・ふるさと住民登録制度を活かした方法はどうか。京都の亀岡市のように、第2の故郷として登録してもらって、活性化につなげる。

【担い手について】

- ・地元でがんばっている人の商業を、新しく来る人がつぶしてしまわないか心配。連携させて活性化するような仕組みが必要なのではないか。
- ・アントレワーク実践者等、山村地域で起業したい人は一定数いる。地域の魅力をどう情報発信していくかが大切。

＜産業振興課からの質問事項への回答＞

【買い物のバス利用について】

- ・バスの利便性をどうするかではなく、買い物環境を解決できないと先に進まないのではないか。
- ・「買い物の支援のためだけにバス」ではなく、交通や福祉（商品を配ることによって見守りも兼ねる）等も含めて考える必要があるのではないか。また、宅配サービス、共同配送（ルートを持って配送）等のようなサービスにしていけるのか。買い物の方法も、ディスプレイではなく、WEB サイトや IOT の活用で高齢者等が自宅で買い物が可能な環境を作るとか検討事項は沢山ある。
- ・移動インフラの本質を考えたらいいのではないか。移動インフラ自体の維持コストも考慮しつつ、買い物以外の利用も含めて考える必要がある。
- ・今のバスの利用用途は、病院が主なのではないか。ついでの買い物はあると思うが、買い物が主ではないのではないか。

【空き店舗の活用について】

- ・旭地区に適した商業を見つける、持続可能な商業を見つけることで商業が活性化していくのではないか。

- ・ 空き店舗が個人所有という意識を変えないといけないのではないか。地域の財産として店舗をみて、地域として協力するとか。
- ・ 改修補助金や事業活用の伴走支援等知られていない部分もある。相談したらサポートしてくれるという事実を広めたほうがいいのでは。
- ・ 以前は地域材を利用した時に補助金が出た。そういったものがあるとよい。
- ・ 空き店舗がある地域が何を求めているのか、地域の状況（周りにどんな店があるのか、地域の行事はどんなものがあるのか）や雰囲気があらかじめ分かっているとよい。所有者だけではなく、事業の中間支援をしてくれるところも必要なのではないか。

4 支所長あいさつ

5 閉会

— 午後8時20分 令和8年度第4回旭地域会議終了 —

以上